

第5学年	
教科 おおたの未来づくり	場所： 体育館
単元名	
大田の工場を盛り上げよう！	

## 1 単元の目標

地域の工場で生産されているもの、そこに従事する技術者の技や思いを実際にインタビューして調べる活動を通し、身近な地域に高い技能技術をもつ人がいて、製品の要となる部品等を製造していることを理解する。また、ものづくりを支える人々の思いや将来の大田区のものづくりについて考えるとともに、地域のものづくりへの関心を高め、広めることができるようにする。

## 2 評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	コンセプト	① 町工場の方の立場に立ったコンセプト設定の意味を理解し、それに必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	① 町工場の方の話を基に、情報を整理・分析し、地域創生動画のコンセプトを設定している。	① コンセプトを設定するためという目的をもって講話をよく聞こうとしている。
	デザイン	② 町工場の方や広報資料を見る人に受け入れられる取組を企画するために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	② コンセプトにあった広報資料のデザインを地域性・公共性・持続可能性などを踏まえて考えている。	② 町工場のかたのフィードバックを受け止め、企画案の改善や必要な情報収集に協働的に取り組もうとしている。
	クリエイション	③ 取材したことや町工場の魅力を分かりやすく発信するために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	③ 取材の結果や、町工場の関係者からのフィードバック等を生かし、試行錯誤を重ね、内容を改善している。	③ 広報資料の改善に向けて、自分と他者のよさを生かして分担するなど、協働的に取り組み、取組を振り返って価値や改善点を見いだそうとしている。
	ICTの活用	④ ICTを活用した情報収集・スライド作成・動画編集・調査・統計資料作成に関する知識・技能を身に付けている。	④ 効率性や分かりやすさ、地域性、公共性、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	④ モラルや他者意識をもってICTを活用し、ICTの特性を生かした形で他者との協働や振り返り、企画や取組の改善のために活用しようとしている。

### 3 単元について

#### (1) 単元設定の理由

本校の学区域内には「テクノ WING」という工場団地がある。大田区はものづくりの街であり、テクノ WING は日本のものづくりを支える大田区の基盤的技術産業の維持、発展、産業集積の活性化を目指し、産業と生活が共存するまちづくりを進める「住工調和環境整備事業」として大田区が建設した工場アパートである。また、テクノ WING 以外にも、世界に誇る技術力をもつ町工場が数多くあり、実際に家族が働いているという児童も少なくない。一方で、後継者不足や物価高による町工場の存続危機について認識している児童は少ない。

さらに、大田区では年に一度、町工場を公開し、モノづくりの技術や職人と触れ合う機会を提供することでモノづくりを盛り上げる「オープンファクトリー」というイベントを行っている。本校が位置する本羽田エリアでは、テクノ WING がオープン工場として出展しているが、広報活動が上手くいっておらず、集客数が少ないという現状がある。また、学区域内で行われているイベントであるにもかかわらず、児童や家庭におけるオープンファクトリーの認知度も低い。

本単元では、児童のもつびのびとした感性や主体性に基づいた ICT 活用により、地域の工場の PR 動画やチラシ等を作ることで、大田区の工場を活性化させようとする試みである。また、児童が実際に工場を訪問し、技術を見たり職人の方と関わったりする活動を通し、「大田区が世界に誇るモノづくりの街」であることを体感し、児童自身が誇りをもって広報活動をしていきたいという思いをもつことが重要である。どのような広報活動が効果的かを考え、ICT を活用した広報資料作成を通して、工場で働く方々の願いをどのように反映し、問題を解決していけばよいか主体的に学習に取り組む態度もつ児童を育成したいとの願いを込めて、本単元を設定した。

#### (2) 学習過程

「コンセプト」では、大田区の産業振興課の方に来校いただき、大田区の誇る町工場やモノづくりの技術についてお話をさせていただく。同時に、世界に誇る技術があるにも関わらず、モノづくり産業の閉塞感や工場の衰退等、抱えている課題についてお話をいただき、児童に課題意識をもたせる。その後、大田区の工場について調べ、実際に興味をもった工場を訪ね、職人の方と交流を重ねながら、どのようにすれば大田区の工場が活気を取り戻すことができるか考える。また、企画書を製作する活動を通して、情報を整理し、分析し、プレゼンテーションとして効果的に人に伝えるための技術を重点的に指導する。

「デザイン」では、実際に動画やチラシを作る活動を通し、各工場のよさや魅力を効果的に伝えるために試行錯誤する。このことによって、よりよい未来社会に向けて動画のデザインを、地域性、公共性、持続可能性等を踏まえて試行錯誤することを重点的に指導する。

「クリエイション」では、広報活動を通して、より効果的に工場の PR をするためにはどのような方法をとればいいのか、考えることを重点的に指導する。

(3) 授業時数を削減する教科等の時数と本単元で補完する内容

教科名	授業時数	本単元で補完する内容（総削減時数 20 時間）
国語	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用するなどして、自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫すること。[A話すこと・聞くこと]</li> <li>目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。[B書くこと]</li> <li>筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。[B書くこと]</li> </ul>
社会	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること</li> <li>イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など</li> <li>ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き</li> </ul> </li> </ul>
図画工作	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色、材料の特徴、構成の美しさを感じながら表したい主題をどのように表すか考えること。[A表現（1）1]</li> </ul>
総合的な学習の時間	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。</li> </ul>

4 児童の実態

どんなことにも挑戦してみよう、自分たちでやってみようという児童が多く、児童がやりたいと思ったことを実現に向けてどうすればよいか考えることのできる力をもっている。一方で、問題解決に向けて勢いで進んでしまうことも多く、失敗をしてもねばり強く取り組んだり、成功イメージに向けて努力を重ねたりすることができる児童が少ない。児童がゴールイメージを明確にもち、成功させるためにはどうしたらよいか試行錯誤を重ねられる環境づくりをし、失敗してもそれを次につなげていこうとする意欲を育てたい。

ICT の活用については、タイピング能力に大きく差があることもあり、授業内でなかなか活用できていないのが現状である。週に一度ほどタイピング練習等をする時間を設け、タイピング能力を伸ばしているが、まだまだである。今回は、グループ活動になるため、ICT 活用能力も考慮しながらグループワークをし、全員に「ICT を活用して広報資料を作成することができた。」という達成感をもたせたい。

5 指導の手立て

(1) トライ&エラーをくり返しながら取り組むための工夫

挑戦してみた結果がどうであったか、またその結果から次によりよいものにしていくためにどうしていくとよいかということを見出し、児童が考え、積み重ねていくことが大切である。「デザイン」、「コンセプト」、「クリエイション」とそれぞれの学習過程で授業パートナーと児童が実際にやり取りをする時間

を設定し、フィードバックをもとに改善・修正していけるようにした。その際、まとめた内容を「見てください。」というのではなく、何を目的として取り組んだのかという自分たちのゴールイメージを明確にして相手に伝えることを意識させるよう指導を行う。

また、授業パートナーとのやり取りだけでなく、児童同士の意見交換の場も設定し、スモールステップでのトライ&エラーを積み重ねていけるようにする。その際にも、自分のグループは何を目的とし、誰をターゲットとした結果、その提案を行っているのかということを明確にさせ、適切に相手に伝えられるよう意識させ、活動に取り組みせていく。

ゴールイメージを明確にするために、企画書は教師が作った型に沿って作成させ、授業パートナーの意向と違わないかという打ち合わせを行う。児童と授業パートナーが同じゴールイメージをもつことで、授業パートナーからも適切な支援や助言を得ることができ、児童が主体的に挑戦していくことができるのではないかと考えた。

## (2) 依頼された課題を自分事としてとらえるための工夫

第1時で産業振興課の方から依頼をしていただく際に、「大田区ってすごい。」と児童が思えるような大田区の工場技術の話をしてもらえるよう、事前にしっかりと打ち合わせを行う。また、「頼りにしているよ。」という熱い思いを発信してもらい、児童の気持ちを高めることにつなげていく。

また、徒歩圏内の工場に授業パートナーとして協力していただき、「自分たちの身近に、こんなにすごい技術をもった工場がある。」ということを実感させ、気持ちを高めていく。また、事前の調べ学習で、工場技術が児童の生活と密接に結び付いていることを実感させ、魅力を発信したいという気持ちにつなげていく。そして、授業パートナーに対する相手意識をしっかりとめさせることで、授業パートナーの思いを自分事としてとらえられるようにしていきたい。

## (3) 相手意識をもつための工夫

本單元における発信する相手とは「授業パートナー」と「工場の魅力を発信する相手（児童・保護者・地域）」の二者である。

### ①授業パートナーに対する相手意識

一つの企業に対して学習する児童の人数を3～4人に設定する。そうすることで、全員が自分の役割をもち、果たしていこうという意識をもつことができると考えた。また、事前に授業パートナーである工場についての調べ学習を行い、児童自身が感じるその工場の魅力は何かということを考えさせた上で、インタビューを行わせる。

### ②工場の魅力を発信する相手に対する相手意識

授業パートナーとのやり取りをふまえ、誰に発信していきたいかということを、ある程度児童に考えさせ、決定させる。「自分たちで決めた」という意識のもと活動を行っていくことで、より児童が主体的に取り組んでいくことができると考えた。また、「クリエイション」で発信したあとには、form等を活用し、発信相手から感想や評価をもらえるような場を設定する。

6 指導計画（全20時間）

学習過程	時	○主な学習活動 ★指導の手だて	◆評価規準【観点】 (方法)
コンセプト①	1	<b>【課題提示】</b> ○大田区産業振興課の方に来ていただき、大田区の工場の現状を聞く。 ★産業振興課の方から大田区の町工場の技術の素晴らしさと抱える課題を聞き、取り組むことに関心をもたせる。	◆【主】①（発言、態度）
	2	<b>【情報収集①】</b> ○地域の工場の特徴や終了人数の変化、オープンファクトリー等について調べ、大田区の町工場について知る。	【知】④（ICT）
	4 ・ 5	<b>【情報収集②】</b> ○興味をもった工場に行き、その工場の技術や願いについて知り、資料を集める。 ★各工場に事前にアポイントをとり、質問したい内容や知りたいことをまとめてから工場に赴く。	【主】①（ICT、態度） 【考】①（ICT） 【知】①（ICT）
	6	○6年生に動画編集の仕方を教えてもらう。 ★昨年度6年生が使用した Adobe の使い方について、6年生に教えてもらい、実際に動画を作成してみる。	【知】④（ICT） 【主】④（態度）
	7 ・ 8	<b>【整理・分析】</b> ○各工場の願いや思いをもとに自分たちにできることを考え、プロジェクト企画書を作る。 ★現状分析、企画の目的、企画の具体的な内容、スケジュールを Google スライドに記入しまとめる。	【考】②（ICT） 【知】②（ICT） 【考】④（ICT）
	9	<b>【まとめ】</b> ○プロジェクト企画書を他のグループの友達や校内の先生方に見てもらい、アドバイスをもらい、修正する。 ★各工場の願いや思いにもとづいた企画書になっているか、インタビュー内容を報告し、客観的に企画書を見てもらうようにする。	【知】②（ICT） 【主】②（発言、態度）
	10	<b>【表現】</b> ○工場の方に向けて企画書をもとに、プレゼンを行う。 ★児童の作成した企画書と、工場の思いや願いにずれがないか確認していただき、フィードバックをいただく。	【知】②（作品） 【主】②（発言、態度）
	11	○前時のアドバイスをもとに、企画書の修正を行う。 ★工場の方からのフィードバックをもとに、工場の方の意に沿った企画書に修正をし、確定する。	【考】②（ICT） 【知】②（ICT） 【考】④（ICT）

デザイン⑥	1 2 ～ 1 5	<p><b>【課題設定】</b> 「大田の工場を盛り上げていけるよう、PRしよう！」</p> <p><b>【情報収集】</b> 広報資料に使用する資料を収集する。</p> <p><b>【整理・分析】</b> 分かりやすく工場の魅力が伝わるように考える。</p> <p><b>【まとめ】</b> 企画書を踏まえた作品として仕上げる。</p> <p>○工場 PR のための動画やスライド、チラシの作成を行う。 ★適宜交流の時間を設け、他の班の良いアイデアを加え、よりよいものに仕上げていく。 ★広報資料がある程度完成次第、工場の方に見ていただき、フィードバックをしていただく。</p>	<p><b>【主】</b> ④ (ICT)</p> <p><b>【考】</b> ③ (ICT)</p> <p><b>【知】</b> ③ (ICT)</p>
	1 6	<p><b>【表現】</b> ○他の班の友達に作成した広報資料を見てもらい、アドバイスをもらう。 ★「工場の方の願いを実現するためにはどうしたらよいか」、「より願いや思いを効果的に伝えるにはどうすればよいか」の二点に絞り、フィードバックを行う。</p>	<b>【主】</b> ③ (発言、態度)
	1 7	<p><b>【表現】</b> ○フィードバックをもとに広報資料を修正する。 ★広報資料の修正と共に、各工場の願いを実現し、大田区のモノづくりを盛り上げていく内容に仕上がっているか確認を行う。</p>	<p><b>【知】</b> ③ (ICT)</p> <p><b>【考】</b> ③ (ICT)</p>
クリエイション③	1 8 ・ 1 9	<p><b>【課題設定】</b> ○広報資料発表会を行う。 ★作成した広報資料の発表会を行う。産業振興課や工場、城南信金、野村不動産の方に来ていただき、フィードバックをしていただく。</p>	<p>◆ <b>【知】</b> ③ (作品)</p> <p>◆ <b>【主】</b> ④ (ICT、発言)</p>
	2 0	<p>○作成した資料を公開する。</p> <p><b>【情報収集】</b> <b>【整理・分析】</b> ○公開しての反応を調査する。 ★forms 等を活用する。</p> <p><b>【まとめ】</b> ○企画書に即して取り組んだ成果や課題をまとめる。 ★成果と課題についてまとめたものを工場の方に見ていただき、最終的なフィードバックをいただく。 ★工場の方との関わりの中で、自分の住んでいる区に対する愛着の深まりや、試行錯誤して地域創生をやり遂げることの喜びを自覚する。</p>	◆ <b>【主】</b> ③ (ICT、発言)

7 本時の指導計画

5年1・2組（全20時間中の第11時）		場所：体育館
目標：授業パートナーへのインタビューをもとに作成したプロジェクト企画書を、他のグループの友達や校内の先生方に見てもらい、企画案の改善や必要な情報収集を行う。		
	○主な学習活動・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて
導入	○本時の学習の流れとグループ内での役割を確認する。	
	企画書の内容を交流し、よりよい企画書にするために、気付いたことを伝え合おう。	
展開	○企画書発表を行うグループと発表を聞くグループに分かれ、交流を行う。 ・発表グループ 1. インタビューの報告 2. 企画書のプレゼン 3. 質問やアドバイス ・発表を聞くグループ インタビューの報告を受け、「授業パートナーの意図に沿っている企画書であるか」という観点に沿って質問やアドバイスをする。	◆【知】②（作品） ◆【主】②（発言、態度） ★1回の交流を7分間とし、各班2回はプレゼンをすることとする。 ★発表グループは、発表後に適宜企画書を修正する。 ★児童同士のアドバイスだけでなく、教員からもアドバイスをもらう。その際、グループの担当教員を決めておく。 ★フィードバックの視点を明確にして他の企画書を見ることで、自分たちの企画書にも生かせることがあるか考えるきっかけになるようにする。
	振り返り	○班ごとにもらったフィードバックを確認し、次回は工場の方と企画書の確認をすることを確かめる。

8 社会で活躍する人との連携

企業名	依頼内容	資質・能力の育成に期待できる効果
大田区産業振興課	問題提起の講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田区の町工場の誇る技術の素晴らしさと、現在抱えている課題について、児童が現状を知るきっかけをつくり課題意識をもつ。</li> <li>・区の職員からの依頼を受け、児童のモチベーションを高める。</li> </ul>
城南信用金庫 野村不動産	授業パートナーの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩圏内の工場を紹介してもらうことで、授業パートナーへの自分事としての意識を高めさせる。</li> </ul>
株式会社三光電子工業 株式会社酒匂製作所 株式会社勝栄電業社 株式会社リーフファクトリー 株式会社京浜理化工業 株式会社マゲテック 株式会社ピーエスアイ 株式会社エムアイデー	工場インタビュー 児童による広報活動	